

～～第8492回～～

荒川三山～赤石～聖

～H30. 7. 31～8. 4～

1日目:台風の影響による樫島行き送迎バス運行中止で、1日遅れて出発。静岡 5:00 出発。畑薙夏季臨時駐車場に到着するとすぐに臨時のバスに乗車できた。8:00 には樫島着。いよいよ大縦走への出発。千枚小屋への登山道入り口は、従来の入口よりさらに奥まで歩いた所が変わっていた。新しい立派な吊橋が架かっているところが登山道入り口である。いきなり急登となり、まだ所どころ踏み固められていない新しい道である。今日の行程は標高差千五百メートル強の登りで、身体が慣れていない中での急登はかなりきつい。ゆっくりとした歩みで、適度な休憩も入れて登って行く。清水平で昼食。沢の水が冷たくて美味しい。汗で失った水分補給にはまたとないご馳走。駒鳥池からは最後の急登で、疲労が蓄積してきた身体にはこたえる。お花畑が迎えてくれて、千枚小屋へ到着。ここのお花畑は、以前来た時よりさらに広がっていてちょうど様々な花が見ごろを迎えていた。別館をあてがわれて、ほとんど貸し切り状態。外トイレへの行き来は、お花畑の中のかかなりの傾斜道で、足取りが重くきつい。

2日目:4:30 より朝食。快晴の朝。小屋前では富士山がくっきりと見え、そのやや左から太陽が昇る眺望がすばらしい。今日の行程は荒川小屋までと比較的短い。急ぐこともないので、別館奥の展望所から赤石岳を眺めたりしてゆったりと朝の時間を楽しむ。ところが、「すぐに尾根筋にはガスが上がってくる」と小屋番からせかされて、追立てられるように千枚岳へ向けて出発。その後、小屋番の言う通り、千枚岳から荒川三山にかけての尾根上ではガスが湧いてきて、赤石岳などの山並みはガスに隠れたままであった。千枚岳から丸山へのルートでは、岩影や砂礫地に南アルプス特有の“タカネビランジ”ほか様々な高山植物がきれいに咲いている。過去にこの道を通じた際には、岩をつかみながらの急な下りなどでかなり緊張した記憶があるが、迂回ルートが出来たようで難なく通過することができた。それでも、この付近の道は片面が切れ落ちている所もあり、通過には細心の注意を要する。中岳を過ぎて、分岐からは身一つで前岳を往復する。過去に通じた際には分岐からすぐに下って行き、前岳をパスしてしまったことが常に心に引っかかっていた。前岳に立ち寄ることができて、長年にわたり鬱積していたものを晴らすことができた。分岐からの急斜面はザレ場で、ジグザグ道を足の踏み場を確かめながらゆっくり下っていく。途中のお花畑は柵で囲まれていて、動物の食害から高山植物を保護している。荒川小屋を見下ろすガレ場で昼食を摂り、13:00 過ぎには荒川小屋に到着した。水場がテント場近くまで下りて行かねばならずかなり遠く、小屋まで戻るのが大変。夕飯は、この小屋名物辛口の“荒川カレー”ニンニク入りでうまい。お代わり自由。別注文では千円、山盛りのお代わりを食べている人もいた。

3日目:4:30 より朝食。今日の行程も短い、赤石岳で周辺の山並みの眺望を期待して、早めに出発。大聖寺平までは少しずつ登って行く比較的歩きやすい登山道。そこか

らは小赤石への約2時間の急な登り。振り返ると昨日歩いた荒川三山の山並みがくっきりと見える。小赤石岳の肩に着くと、そこからは赤石岳の大きな山容が迫ってくる。尾根上の道を小赤石岳山頂へ進んでいくと、晴天にも関わらず突然ライチョウの親子が姿を現した。雛が6羽もいて、登山道すぐわきで逃げもせずよちよち歩き回っている。さらに近くには雛2羽程度の別の親子もいた。小赤石岳山頂を通過して、いったん下って行くと樫島方面分岐。分岐付近にはザックがたぐさんデポされていて、赤石岳へは身軽な恰好で登っていることがうかがえた。約30分登ると赤石岳到着。今日はガスもかからず、くっきりとした素晴らしい眺望が楽しめる。南アルプスでも北部の塩見、間ノ岳方面、中央アルプスや御嶽山方面、更には北アルプス方面までの遠望がきく。ゆったりと素晴らしい山並みを堪能した。近くの赤石岳避難小屋の小屋番・榎田さんを表敬訪問。約1時間ゆったりとした時間を過ごした後、百間平方面へ下って行く。こちらの道は大きな石がゴロゴロとしたガレ場、そして赤石岳を背にした大斜面の下り。そこからやや上り返して、百間平へ。“平”の名前がついている通りかなり広い平たんな場所で、赤石岳、聖岳の絶好のビューポイント。ここから見る赤石岳も大きい。さらに西へ進み、岩の急な下り坂を進んで行くとテント場へ到着。その先に今日泊まる百間洞山の家が見えてきた。すぐそばを沢が流れていて、水は豊富な場所。ここは今回宿泊する山小屋では唯一の屋内トイレで便利。部屋ではゆったりと間隔広く寝ることができた。夕飯は、名物“とんかつ”（ただし、16:00までの到着者）。そして、蕎麦までついている贅沢な夕飯。“大根下ろし”で食べた“とんかつ”はボリュームもあり絶品。

4日目:4:30より朝食。今日は5日間の中で最も長く、しかも山をいくつも越えて行くきつい行程。出発するとすぐに小屋裏から大沢岳横乗越への急登。今日も天気は良さそう。朝露に濡れた木々の間の上り坂をゆったりと登って行く。約1時間で大沢岳横乗越到着。今回は大沢岳は眺めるだけ。中盛丸山方面へ。ここから小兎岳、兎岳などのいくつものピークを越えて行く。小兎岳の先コルから見上げる兎岳登りの砂礫の斜面は大きく、いかにもきつそう。ザレ場道をくねくねと登って行く。兎岳山頂からの眺めも素晴らしく、しばし休んで眺望を楽しむ。そこから聖兎のコルまで急な下りで、途中で荒れ果てた避難小屋があった。聖兎のコルがどこか分からないまま進んで行き、いつの間にか聖岳への登りとなっていた。疲労も蓄積してきて、黙々とひたすら登って行く。途中では右斜面が切れ落ちている所もあり、決して油断はできない。何回か休憩をはさみながら登って行くと、最後はガレキの道となりほどなく前聖岳山頂到着となった。このころには赤石岳山頂にはガスがかかり、残念ながらこちらからの眺めを楽しむことはできなかった。しばし、休憩。今回の縦走最後のピークを楽しむ。しかし、これからの下りも滑りやすい砂礫の大斜面で決して気は抜けない。途中からガレの縁を通り、さらに進むと小聖岳。この付近かどうかは分からないが、聖岳では行方不明者捜索中との情報もあり、休憩時にもバランスを崩して滑落などしないように細心の注意をする。聖岳方面へ向かう単独登山者とすれ違い、山頂を越えて兎岳避難小屋まで行きそこで宿泊する

とのこと。すでに 14:00 を過ぎていて、大丈夫だろうか？と思いつつ小屋へ向かう。お花畑の間の道を通り、今日の山小屋聖平小屋へ到着。すでに大勢の登山者が到着している。テント場も色とりどりのテントが張られている。夕飯には静岡のわさび漬けもついていて、メイン料理は“おでん”。トイレはかなり遠くにある外トイレ。ただ水が豊富ならではの洋式・水洗方式。夕方からかなり激しい雨となった。トイレ行きのための傘は備え付けあり。途中で会った単独行の人は無事に兎岳避難小屋に到着し雨から身を守っているだろうか？気になって仕方なかった。

5 日目:5:00 から朝食。すでに多くの登山者は、出発済み。朝食、トイレともにすいていて快適。いよいよ下山。途中、切れ落ちている山肌斜面を横切る道もあり、決して気は抜くことはできない。約千メートル強下る山道。“下山時の事故発生が圧倒的に多い”との鉄則を胸に刻みながら慎重に下って行く。途中からは、登ってくる登山者の数が増えてきて、すれ違いに気も遣い時間も要するようになる。徐々に高度を下げていき、聖沢吊橋まで下るともう先が見えたとゆっくりとした休憩をとる。しかし、このあたりでもまだまだ山腹道は切れ落ちているところもある。決して油断しないように下って行き、12:00 前には聖沢登山口に到着。送迎バスは 13:00 なので、ゆっくりと時間を過ごして、今回の大縦走の振り返りをする。天気にも恵まれて、南アルプス荒川三山～赤石岳～聖岳を巡る大縦走を堪能できた。白樺の湯で 5 日間の汗を流し、さっぱりとして静岡へ向かった。

参加者：5 名（静岡北 4、静岡東 1）

天候：1 日目から 5 日目まですべて晴れ

地図：赤石岳・上河内岳

コースタイム：基本的に 30 分歩き 5 分休憩。昼食時のみ 20 分程度の休憩。その他、山頂では時間をとり眺望を楽しむ。

(1 日目) 榎島 815…鉄塔下 940…小石下 1050…清水平 1220-40…見晴台 1350…駒鳥池 1510…千枚小屋 1605 (2 日目) 千枚小屋 620…千枚岳 720…丸山 830…悪沢岳 930…コル 1020…中岳避難小屋 1115…前岳 1130…分岐 1155…荒川小屋 1325 (3 日目) 荒川小屋 605…大聖寺平 645…小赤石岳 825…榎島下降点 850…赤石岳 920-1000…赤石岳避難小屋 1030…大斜面下コル 1105…百閒平 1220-50…百閒洞山の家 1340 (4 日目) 百閒洞山の家 530…百閒洞下降点 640…中盛丸山 710…小兎岳 820…兎岳 925…聖兎のコル 1020…聖岳 1125-1300…小聖岳 1400…薊畑 1445…聖平小屋 1505 (5 日目) 聖平小屋 555…沢 725…吊橋 740…造林小屋跡 830…聖沢吊橋 935…出会所小屋跡 1100…聖沢登山口 1140

記録：静岡北支部 望月



悪沢岳から中岳への下り(2日目)



荒川前岳下荒川小屋へ向かう、奥は赤石岳(2日目)



小赤石岳登りより望む荒川三山(3日目)



ライチョウ親子(小赤石岳付近)(3日目)



赤石岳への登り(3日目)



百間平付近から望む赤石岳(3日目)



中盛丸山、奥は兎岳(4日目)